
「海の生き物を守る会」メールマガジン No. 76

2011.4.1 (金)



Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

「今日の海の生き物 ゼニガタアザラシ *Phoca vitulina stejnegeri*

日本で定住する唯一のアザラシ類で、北海道の襟裳岬や大黒島などに 900 頭ほどが生息し、繁殖をしている。脊椎動物門ほ乳類綱食肉目アザラシ科に属する海産ほ乳類で、分布は太平洋および大西洋北部と広い。日本では一時絶滅寸前になったが、保護政策によって現在少しずつ増加している。体重は 50~170kg になり、体表に銭形模様が見えることから、名前がつけられた。雌は 4-6 歳くらいで成熟し、春に岸の岩の上などで出産する。ゴマフアザラシ



シと似ているが、体表の模様の違い、出産場所の違いなどから判別される。周辺の沿岸性の魚類を食べているが、定置網などの獲物

を食べることもあり、一部の漁業者からは嫌われている。(色丹島にて 倉澤栄一氏撮影)

目次 「今月の海の生き物」ゼニガタアザラシ

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース
2. 海の生き物を守る会の現在の活動と予定
3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報
4. きらめく動物たちの命と海（久保田信の白浜だより（その3））
5. 事務局便り
6. 編集後記



**いまこそ 海を汚し 海を暖め
人間と海の生き物を苦しめる 原子力発電を 止めよう**

No Nukes

1、海の生き物とその生息環境に関するニュース

【国際】

●魚の乱獲で3兆円の損害？

乱獲によって水産資源が減少を続けていると指摘されている問題で、カナダのブリティッシュコロンビア大学の研究グループが、過去 50 年間に乱獲のために失われた水産資源が毎年の水揚げ量の 9 分の 1、1 千万トンにのぼるという試算結果を発表した。この「失われた漁獲量」の価値は、約 3 兆円と推定された。漁業がこれまで適切に管理されていれば、これだけの水産物が食糧不足に悩む人たちに届けられたと、研究グループは指摘している。乱獲と食料の配分は別の問題だと思うが、たしかに乱獲はなんとかしないといけない問題ではある。

【全国】

●福島原発震災で、放射性物質が海へ 放水口付近 超高濃度の放射性物質を検出

原発震災を引き起こした(株)東京電力の福島第一原発および第二原発では、とくに第一原発の 1~4 号機でメルトダウンを含む事態を引き起こし、深刻な状況が続いている。炉心を冷やし続ける必要から、大量の水を注水しているが、一方で高い濃度の放射性物質を含む水が放水口から海へ流出し続けている。経済産業省原子力安全・保安院は、福島第一原発の南放水口から 330m 離れた海岸の海水から法令規制限度の 4300 倍以上の放射性ヨウ素 131 を検出したと発表した。それまでも同地点では高い濃度のヨウ素 131 を検出していたが、31 日になってこれまでにない高濃度を検出したことになる。これは、依然として放出口か

ら放射性物質が流れ続けており、その量はむしろ増えていることを示している。保安院では、相変わらず「海で拡散して薄まるので人体に影響はない。また近くで漁業が行われていないから問題ない」と繰り返している。

海洋研究開発機構 JAMSTEC の「白鳳丸」が三陸沖合で 23 日から毎日、空中線量と海水中の放射性物質濃度の観測を行い、28 日までの結果の発表が行われている(28 日からは、白鳳丸に代わって「みらい」が出航)。23 日には福島原発沖の海水中に放射性ヨウ素 131 とセシウム 137 の高い濃度が観測されたが、その後、28 日までに徐々に濃度が減少している。しかし、その後の原発のようすでは、今後の大量の流出が懸念される。

東京電力は、海の汚染を調べるために、海藻のホンダワラ類などの海のサンプルを採取して放射性物質の含有量を測定することになっているが、現在までにはまだ結果は発表されていない。

●環境省 海洋生物多様性保全戦略を策定

環境省では、海洋の生物多様性を保全し、その生態系サービスを持続可能な形で利用できることを目的とした基本的な考え方と行政の施策の方向性を示した「海洋生物多様性保全戦略」を策定して発表した。その概要と特徴は以下のようなものである。その中でも海洋保護区の拡大と効果的な運用を目指すことが書かれているのが注目される。

1. 概要

国内外の海洋の生物多様性の現状悪化や、海洋の生物多様性保全に対する関心の高まりを背景とし、海洋基本計画(平成 20 年閣議決定)を踏まえ、生物多様性国家戦略 2010(平成 22 年閣議決定)に基づき海洋生物多様性保全戦略を策定しました。

本保全戦略は、海洋の生態系の健全な構造と機能を支える生物多様性を保全して、海洋の生態系サービス(海の恵み)を持続可能なかたちで利用することを目的としています。

なお、本保全戦略は、平成 22 年度に設置した「海洋生物多様性保全戦略専門家検討会」における議論を踏まえ、関係省庁の協力を得て、策定したものです。

2. 海洋生物多様性保全戦略の特徴

主として排他的経済水域までの我が国が管轄権を行使できる海域を対象とし、海洋環境と生物多様性の特徴やそこから得られる生態系サービス、海洋の生物多様性に及ぼす人間活動の影響を整理し、海洋の生物多様性の保全及び持続可能な利用について基本的な視点と施策を展開すべき方向性を示しました。特に、保全施策の一つとして国際的にも関心の高い海洋保護区に関しては、我が国において明確に定義されていなかったため、本保全戦略において定義と考え方を明らかにしました。その上で国際的な目標も踏まえ、科学的知見に基づき、自然公園等の既存の制度を活用した区域の拡大や管理の拡充、ネットワーク化の推進等を図る旨記述しています。さらに、こうした施策に際して重要な科学的知見の充実や多様な主体の協働・連携等も不可欠であり、そのための取組を進めることとしています。

【東北】

●ウミネコ繁殖環境整えよう 燕島で清掃

青森県八戸市の燕島は、ウミネコの繁殖地として有名だが、3月11日の津波により、ゴミなどが散乱して、ウミネコの繁殖にも支障が出かねないと判断し、地元の観光協会など3団体の呼びかけに応じて地元住民など約300人が協力して、災害のゴミなどを片付けた。燕島は津波に襲われ、犬や猫などの侵入を防ぐためのフェンスや、観光案内所の壁が流された。

【関東】

●港に実験海域を設置 海の生物でCO₂吸収？

海の生き物を使って地球温暖化ガスの二酸化炭素を減らす試みが、横浜市と横浜市立大学、関東学院大学、水族館「八景島シーパラダイス」、市内の企業などが参加して行われることになった。脱温暖化プロジェクト「ブルーカーボン」と称する取り組みで、「カーボンオフセット」の仕組みを将来像に見据えたものとなる予定。横浜・八景島シーパラダイスの港に実験海域を設定し、そこでCO₂を吸収する貝類や藻類を育成するというもので、海の環境浄化も同時に目指している。飼育する生物は、カキ、ムラサキイガイ、コンブ、アカモクなどの海洋生物といい、シーパラダイスの港に栈橋を設け、「自然の海的水族館」としてシーパラダイスの観光客にも見えるようにして、環境教育にも役立てたいとしている。この実験海域で効果的なCO₂の吸収が行えれば、それによるCO₂排出権の販売につなげて「カーボンオフセット」の仕組みにつなげようというもの。これから始めて、2012年度に結果をまとめる予定。しかし、狭い海域に多くの生物を詰め込んで、CO₂吸収力を増やそうとすることが成功するかどうかきわめて疑わしい。カキやムラサキイガイは、海水の浄化能力は持っているが、CO₂の吸収にはつながらないし、コンブは横浜のような温かい海で育つとも思えない。「カーボンオフセット」そのものにも環境問題の解決につながるのかどうか、疑問視する研究者も多い。

【北陸】

●砂浜保全に砂袋で“土のう” 人工砂丘の試み

福井市浜住町の鷹巣海水浴場では、高波による浸食で砂浜が流される現象が続いている。とくに昨年は砂浜が流されて駐車場が崩落し、海岸に200mにわたる高さ2mの浜崖ができてしまった。そこで浸食対策技術の開発を行っている国土交通省国土技術政策総合研究所（茨城県）が、これまでの護岸工事とは異なる対策として、砂袋を浜に設置する実験を行った。砂袋を浜崖の下部に設置し、浜崖の崩壊を防ごうとするもの。人工砂丘の役割も期待しているという。今後、砂袋の大きさや施工法などの実験を行いながら実用化を目指す。

●自然石護岸で海再生 穴水

石川県穴水町の新崎漁港のコンクリートの堤防で失われた生態系を取り戻す活動に、穴水

町の新崎・志ヶ浦地区里海里山推進協議会が乗り出すことを決めた。コンクリート護岸や消波ブロックに自然石をスロープ状に積み上げ、ナマコや貝類などのすみかを作り、生態系の復元を目指す。その後の経過は、能登町のと海洋ふれあいセンターが調査を引き受ける。同センターが行っている七尾湾沿岸の動植物モニタリング調査では、コンクリート護岸や消波ブロック周辺で生物多様性が減少していることから、自然石による護岸整備によって、生物の多様性を回復させ、同時に子供たちが海の動植物と親しむ場所を作りたいとしている。

【近畿】

●箱石海岸の白砂青松を取り戻そう クロマツを植栽

京都府京丹後市の久美浜町箱石海岸では、マツクイムシの被害によって海岸林を形成していたクロマツが枯れて、塩害も出始めた。そのため、京丹後市がボランティアを募集し、クロマツを植樹して昔の白砂青松の海岸を取り戻す試みを始めた。大阪工業大学の学生や京都大学の学生も参加し、1400本のクロマツの苗を次々に植えていった。

●「環境は自分のこと」 サンゴ保全と再生考える講演会

大阪市のエル・おおさか（府立労働センター）で、19日にサンゴの保全と再生を考えるシンポジウム「ふたたびサンゴが広がる海へ」が開かれ、東京工業大学の本川達雄教授がサンゴのもつ役割や、その保全・再生について講演した。環境省の中国四国地方環境事務所が主催。市民ら約80人が参加した。本川教授は、サンゴ礁が「富栄養化でサンゴ礁から藻類が優占する海に変化」したり、「温暖化によってサンゴが白化し、サンゴ礁が壊れてしまう」危機に直面している。自分が生きていくためには自分の環境も自分のこととしてとらえなければならないなどと説き、最後に得意の歌「サンゴでタンゴ」を披露して拍手喝采を受けた。

●アマモ場調査など 和歌山大学の研究報告会開かる

和歌山大学が田辺市新庄町で「南紀熊野」をテーマにした学生の自主的活動や研究の報告会を開いた。学生が「南紀熊野地域におけるアマモ場を指標とした沿岸生態系に関する研究」と題して、1955～2005年の田辺湾のアマモ場の長期変化を現地調査や漁業者の聞き取りから明らかになった結果を紹介した。その結果、鳥ノ巣周辺のように以前から変わらず分布しているところもあれば、藤島や江津良など消滅してしまったところも多いことを示した。

【中四国】

●中電 上関原発着工・運転の延期も 「建設は推進」

福島原発震災事故を受けて、山口県知事が上関原発の建設のために長島の田ノ浦を埋め立てようとしている中国電力に一時中断を申し入れたことを受けて、中国電力は工事を中断している。その後の原発事故の行方をみていた中国電力の山下隆社長は、3月28日に記者会見をし、上関原発の「建設工程を変更することも考えられる」と述べ、事実上建設工事の着工や運転開始予定時期を延期せざるを得ないことを認めた。しかし、上関原発の建設そのものは「推進する」と述べ、原発建設による電力供給計画を見直すことはしない姿勢をにじませた。チェルノブイリ原発の事故を上回る規模の事故となる見通しとなった福島原発事故で、世界各国で原発政策の見直しや廃止が世論となりつつあるが、中電社長は世の中の動きについて行けないようだ。また、「絶対安全」「地震があっても大丈夫」としてきた原発政策の失敗の責任をまだ自覚できていないようである。

●上関原発予定地に絶滅危惧の海藻 ウミフシナシミドロ

次々と絶滅危惧種が見つかる山口県上関町長島の田ノ浦。今度は絶滅危惧種のウミフシナシミドロという海藻が発見された。ウミフシナシミドロは、環境省のレッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に指定されている海藻で、九州、沖縄などの沿岸に生育するが、各地の埋立などで生息地が減少し続けている。発見した新井章吾さんは「砂がきれいでも適度な水の流れがある限られた場所にしか見られない」と言う。「長島の自然を守る会」では、環境変化に敏感な生物で、保全と長期の調査が必要。埋立は中止するべきだ」としている。これほど希少種や絶滅危惧種が次々と見つかる場所が、原発の建設予定地とされたこと自身が、問題だ。中国電力は原発建設そのものをあきらめた方が良いのではないか。事故によって会社そのものの存在も危なくなっている東京電力の例を見れば、中国電力はこれら希少種や絶滅危惧種の存在は、原発から撤退する良い理由になるだろう。



海藻研究所の新井章吾さんの説明
「ウミフシナシミドロは緑色であるが、アオサ藻綱(緑藻)ではなく、黄緑藻綱に所属している。陸の湿地に生育するフシナシミドロ属の仲間で、この種だけが海の砂地に生育している。静岡県、兵庫県、福岡県博多湾、鹿児島県錦江湾、沖縄県内

(3ヶ所)に生育が知られている希少種で、カリフォルニアが基準産地である。環境省 RDB 改訂版で絶滅危惧?類、沖縄県 RDB 改訂版で絶滅危惧?類に指定されている。田ノ浦においては、2007年5月に田ノ浦の水深4~6mの砂地に群生地していたが、その後は藻場周辺の砂地にわずかに生育している。」

●大学生が鞆の景観と利便性の両立を提言

広島県福山市鞆の浦の景観保全と道路建設による利便性が意見の対立を生んでいるが、その両立を目指した提言が、立命館大学政策科学部の2年生4人によってまとめられ、福山市鞆町の福山市鞆支所に届けられた。4人は鞆の浦をテーマに選び、文献を読んだり町の人々や行政、警察、NPOなどから話を聞いたり交通量の調査を行ったりして、「歴史的港湾都市・鞆の浦の現状とこれから」をまとめ、七つの施策を提言している。その中では、利便性を解決するために埋め立てや架橋工事によらない手法を考えて提案している。行政がこの提言を活かすことができるか、また大学生が現実の政策にどうかかわるか、これからの試みとして注目したい。

【九州】

●九十九湾にカマイルカ

長崎県九十九湾にカマイルカの群れが泳いでいるのが発見された。九十九島水族館「海きらら」は「湾内でイルカが見つかった記録はこれまでになく、非常に珍しい」としている。15頭ほどの群れと見られ、小魚の群れを追って湾内に入ってきたと思われる。群れは2日間ほどで湾外に去っていったと見られる。カマイルカは外洋性のイルカで、体が白黒の2色で一見シャチに似ている。沿岸近くで見るとは少ない。

●山川湾に赤潮警報 鹿児島県

鹿児島県指宿市の山川湾では、有毒な赤潮プランクトン「ヘテロシグマ・アカシオ」の大発生が起り、14日に赤潮警報を発令して警戒を続けていた。16日までに養殖のカンパチやブリが約6300匹死んだが、それ以降は被害の報告がないという。それ以降、着色域がなくなり、細胞数も減少したので、鹿児島県水産技術開発センターでは赤潮は終息したと判断して、22日に警報を解除した。ただし、山川湾の水温は赤潮プランクトンの増殖に適した水温を維持しており、気象海象条件によっては再び赤潮が発生する可能性は多いので、養殖業者に注意を呼びかけている。同湾では2月28日にも赤潮警報を発令、3月4日に解除したばかりだった。

●サンゴが一部死滅、日南市新燃岳の火山灰が影響

宮崎県の霧島連山・新燃岳の噴火によって、日南市大島沖に生息しているサンゴに影響がでている。噴火による降灰が原因で、同所のサンゴの一部が死んでいるのが見つかった。最初に気がついたのは地元のダイバー。ダイバーは「噴火直後に潜ったが灰で前が見えな

いほど濁っていた」という。再び潜ったときにはサンゴの上に厚く灰が積もっていたという。宮崎大学の深見裕伸准教授が調査した結果、火山灰の影響で 2 割程度のサンゴの群体が窒息して白く変色しているのが見つかったという。大島沖は火口から 65km ほど離れている。

【沖縄】

●泡瀬干潟埋め立て関連予算を可決 沖縄県議会 委員会では修正したが

沖縄県議会は定例会本会議で、一般会計予算案について、泡瀬干潟関連予算を削除する修正案を反対多数で否決し、原案を可決した。それに先だって予算特別委員会が開かれ、修正案が可否同数となり、委員長の裁定で可決されていた。委員会が可決したものを本会議で否決したのは異例のことという。これで泡瀬干潟の埋め立て一期工事は、ほぼ予定通り進められることになりそうだ。沖縄県は貴重な資産を失うことを決めた。

●東江海岸で埋め立て再び始まる

沖縄県が名護市東江で進めている「海岸高潮対策事業」で、2月10日に始まった人工海浜を造成する工事を、「名護の自然を守り、次世代に残したい市民有志の会」など反対する市民らが現場に座り込んで砂の投入を阻止したことは「うみひろも」74号でお知らせしたが、中断していた埋め立て工事が3月23日に反対しているダイバーらの頭の上から砂を投入するという乱暴なやり方で再開された。美しく自然豊かな海が防災という名前の公共事業によって殺されていく。日本中で行われてきたことであるが、そのために日本の海岸は生き物のいない冷たく醜い海岸になってしまった。もう止めて欲しい。日本の海岸政策は早く見直す必要があるだろう。

2. 海の生き物を守る会 現在の活動と予定

●講演会と観察会 当分延期します



今年度の「海の生き物を守る会」講演会と観察会は、5月から北海道、関東、近畿、山口、沖縄などで計画していましたが、3.11の東北地震と大津波もあり、当分のあいだ延期することとしました。ご了承ください。今年度後半で企画したいと思います。あらためて「うみひろも」およびホームページでお知らせいたします。

3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

【東北】

●鎌仲ひとみ監督作品 映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映予定

「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会＋「大根コン」の歌 in 衣川&胆沢

日時：2011年4月17日（日曜日）

会場：1部と2部...衣川区南股地区センター（奥州市衣川区沼野38）／3部...胆沢区小山公民館（奥州市胆沢区小山字道場40-1）

【プログラム】1部（衣川）10：00上映／2部（衣川）13:00上映／3部（胆沢）18：30上映／吉野崇さんが岩手NHK「みんなのうた」で放送の「大根コン」の歌披露

【参加費】前売り大人1000円／当日大人1300円

【主催】「ミツバチの羽音と地球の回転」in 衣川&胆沢上映実行委員会

【問合せ先】ヨシノ／080-1805-7152

【関東】

●鎌仲ひとみ監督作品 映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映予定

「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会＋鎌仲監督トーク&ゲスト対談 in 品川

日時：2011年4月8日（金）開場13:30／上映&監督トーク14:00／ゲスト対談16:40～

場所：東京都品川区西品川1-28-3（[地図](#)）品川区立中小企業センター／品川区西品川1-28-3

【参加費】一般1000円／シニア、18歳以下の割引あり。主催者にお問い合わせください。

【主催】「ミツバチの羽音と地球の回転」品川上映会実行委員会（共催：品川・生活者ネットワーク環境部会）

【問合せ先】市川／03-5751-7105／shinagawa@seikatsusha.net

「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会&鎌仲監督＋坂田昌子さん（虔十の会）トーク in 八王子★トランジションタウン関東里山地区リレー上映★

日時：2011年4月9日（土曜日）第1回上映11:30／トーク13:50／第2回上映15:00

※第3回上映18：30は計画停電のため中止となりました。

場所：東京都八王子市台町2-3-7（[地図](#)）八王子市民体育館／八王子市台町2-3-7

【参加費】前売り大人1000円／当日大人1200円／中高生以下...主催者にお問合せ下さい

【託児】第1回上映のみ託児あり・3歳以上／要予約

【主催】「ミツバチの羽音と地球の回転」トランジションタウン関東里山地区リレー上映実行委員会 <http://watsunagi.com/fujino/>

【問合せ先】前田／090-1045-9044／coup1220@ezweb.ne.jp

「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会&鎌仲監督トーク+UA さんライブ in 藤野 ★トランジションタウン関東里山地区リレー上映★

日時:2011年 4月 10日(日曜日) 第1回上映 15:00/監督トーク 17:30/UA ライブ 18:20
/第2回上映 19:00/監督トーク 21:30

場所:神奈川県相模原市緑区牧野 4611 ([地図](#)) 藤野倶楽部・直子の台所/相模原市緑区牧野 4611

【参加費】前売り大人 1300円/中高生 800円/小学生以下...主催者にお問合せ下さい/当日プラス 200円

【託児】第1回上映のみ託児あり・3歳以上/おひとりあたり 100円/要予約

【主催】「ミツバチの羽音と地球の回転」トランジションタウン関東里山地区リレー上映実行委員会 <http://watsunagi.com/fujino/>

【問合せ先】トランジション藤野/042-682-0255/ fujinode888@yahoo.co.jp

「ぶんぶん通信 no.1」上映会 in 八千代市

日時:2011年 4月 20日(水曜日) 開場 9:45/上映 10:15

場所:千葉県八千代市ゆりのき台 3-7-3 ([地図](#)) 八千代市総合生涯学習プラザ/八千代市ゆりのき台 3-7-3

【参加費】400円

【主催】生活クラブ千葉京葉ブロック八千代支部

【問合せ先】北山早苗/080-5145-3204/ sanaekitayama@jcom.nethome.ne.jp

● 瀬瀬あや監督作品 映画「祝の島」上映予定

日時	場所	会場	問合せ先
4月3日(日) 13:00~	東京都 小金井市	現代座	0466-26-6101 (パパラギ 事務局)
4月3日(日) 19:30~	神奈川県 茅ヶ崎市	パパラギ 茅ヶ崎店	0466-26-6101 (パパラギ 事務局)
4月17日(日)	新潟県	津南町文化センター	025-755-7205

13:30～	中魚沼郡		(萩原)
4月23日(土) 13:00～ 18:00～	栃木県 小山市	小山市立文化センター 小ホール	080-3400-0343(佐通)
5月21日(土) 14:00～	東京都 三鷹市	明星学園高校 会議室	090-3064-5563 (明星学園中学校内 川手)
6月4日(土) 19:00～	神奈川県 相模原市	杜のホールはしもと 多目的室	042-760-3066 (市川)

【近畿】

●京都イベントのご案内「広島・上関へ行こう！」

トークイベント 参加費無料(カンパ大歓迎です)

日時:2011年4月3日(日)(1)14:00から

会場:堺町画廊(〒604-8106 京都市中京区堺町通御池下ル TEL: 075-213-3636)

●向井宏さんをお迎えして(「海の生き物を守る会」代表・京大特任教授)

(2)17:00から

●加藤真さんをお迎えして(京都大学教授・著書に「日本の渚」)

【中四国】

●鎌仲ひとみ監督作品 映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映予定

「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会+鎌仲監督トーク in 岡山市

日時:2011年4月17日(日) 第1回10:00/第2回13:40/第3回17:20

場所:岡山県岡山市北区駅元町15-1(地図) 岡山市デジタルミュージアム4F/岡山市北区
駅元町15-1

【参加費】一般1500円/前売り1300円/団体(5枚以上)1200円

【主催】「ミツバチの羽音と地球の回転」岡山上映実行委員会

【問合せ先】赤井/090-5373-6791

●国際シンポジウム「奇跡の海を守ろう」 in HIROSHIMA

奇跡の海を守ろう

“カムリウミスズメと上関（瀬戸内海）の生物多様性”
国際シンポジウム



カムリウミスズメと上関（瀬戸内海）の生物多様性

国際シンポジウム ～奇跡の海を守ろう～

瀬戸内海で最後に残された生物多様性のホットスポット山口県《上関 かみのせき》ここは国の天然記念物で国際的な保護鳥でもあるカムリウミスズメが世界で唯一、一年を通じて生育する《奇跡の海》です。ところが、上関では原子力発電建設計画が進行しています。本シンポジウムではカムリウミスズメと上関の生物多様性保護について海外からのパネリストもお招きし、国際的な視点から考えます。

1. 日 時 2011年4月10日（日） 10:00～17:00
2. 場 所 広島市平和記念公園内 国際会議場「ヒマワリ」
〒730-0811 広島市中区中島町1番5号(平和祈念公園内) tel 082-242-7777
アクセス方法 → <http://www.pcf.city.hiroshima.jp/icch/access.html>
3. 主 催 長島の自然を守る会
4. 入場料 大人 1,000円（前売り）、当日 1,200円 大学生 500円、高校生以下無料
5. 後 援 日本生態学会・日本ベントス学会自然環境保全委員会・日本鳥学会
日本自然保護協会・日本環境法律家連盟・WWF ジャパン・パタゴニア
6. 協 賛 ラッシュ・ジャパン

[プログラム]

第一部 世界的な貴少種 カンムリウミスズメについて (10:00~12:00)

「海鳥の目から海洋環境を見る」 綿貫豊

「宮崎県門川町枇榔島におけるカンムリウミスズメの生態」 中村豊

「瀬戸内海西部における非繁殖期のカンムリウミスズメの生態」 飯田知彦

「上関町宇和島におけるオオミズナギドリの繁殖生態」 渡辺伸一

第二部 ウミスズメ類の調査と保全対策について (13:00~15:15)

~海外の事例から~

「アメリカとメキシコにおけるセグロウミスズメの保護と研究(1991-2010)」

* Harry R Carter (Carter Biological Consulting)

* Darrell L Whitworth (California Institute of Environmental Studies)

カリフォルニア中部における海鳥の繁殖コロニーに対する人的被害を減らすためのプログラム開発

* Karen Reyna (National Oceanic and Atmospheric Administration)

演題未定

* Nils Warnock

第三部 上関(瀬戸内海)の生物多様性とその保護について (15:30~16:00)

「周防灘に残されている瀬戸内海の内風景」(加藤真)

「生物多様性保全の観点から~3学会の取り組み」(佐藤正典)

第四部 パネルディスカッション (16:00~17:00)

問い合わせ：長島の自然を守る会 代表 高島美登里

〒742-1403 山口県熊毛郡上関町大字室津 836 tel 090(8995)8799 fax 0820(62)0710

【九州】

●鎌仲ひとみ監督作品 「ぶんぶん通信」上映予定

「ぶんぶん通信」上映会+富田貴史講演 in 都城市

日時：2011年4月2日(土曜日) 上映 18:00/講演 19:10

場所：宮崎県都城市姫城町10街区7号(地図) 都城市コミュニティーセンター/都城市姫城町10街区7号

【参加費】1000円

【主催】ミツバチの羽音と地球の回転上映会実行委員会

【問合せ先】水口/0986-45-5109/ mirutos@nifty.com

「ぶんぶん通信 no.1」上映会+富田貴史講演 in 小林市

日時：2011年4月4日(月曜日) 開始 13:30

場所：宮崎県小林市細野1783(地図) 慈敬園/小林市細野1783

【参加費】 1000 円

【主催】 小林の環境を守る会

【問合せ先】 菊池／080-4281-8984／ e-villega@kfd.biglobe.ne.jp

4. きらめく動物たちの命と海 【久保田信の白浜だより(その3)】

年末のタイでのフィールド調査 —あわや惨事を目撃者—

2004年12月20日から1週間、タイ国バンコクのチュラロンコン大学とブラパ大学を訪れ、刺胞動物門ヒドロ虫類の系統分類学について共同研究調査などを行った。広島大学の豊潮丸でお世話になっている大塚攻助教授チームの寄生虫類の研究調査に同行させて頂いた。チュラロンコン大学では、ヒドロクラゲのいくつかのサンプルを調べたところ、日本に全く生息しない種類その他、汎世界的な終生プランクトン種も多かった。2003年6月に開催された国際サンゴ学会で報告した日本初記録種が、バンコク付近の川の中流部から、日本で報告例のない種と一緒に採集された。異なる生息域に通常は住みわけている種であっても大きな川では共存が可能なのだろう。

ブラパ大学には水族館や博物館があり、連日、大勢の小中学生や一般団体などが押し寄せていた。両施設を案内して頂いたが、田辺湾で見かける熱帯系の動物が数多く飼育展示されていて親しみを覚えた。例えば、クマドリなどのモンガラカワハギ類や、オニヒトデなど南方系の本場ものが次々と現れる。

カイヤドリヒドラ類の研究調査

分類学研究室で無脊椎動物を専門にしているトンさん(Sumaitt Putchakarn)、カワさん、ティクさん(Kitithorn Sanpanich)、スチャさん(Sucha Munkongsomboon)、そして底生動物学が専門で理学部長のカシンさん(Pichai Sonchaeng)にお世話になった。あちらこちらのフィールドを案内して頂き、自然養殖で市場に出回っているミドリイガイやカキの1種をはじめとして、ハイガイ、タイワンハマグリなどの二枚貝類を購入した。1個体ずつ開いてカイヤドリヒドラ類の共生状況を調べた。シャム湾は塩分濃度が低く、水深の浅い場所なので、カイヤドリヒドラ類の生息に適していると期待していた。しかし、どの二枚貝を開けてもさっぱり共生がみられなかった。これとは対照的に寄生性のケンミジンコ類や扁形動物の渦虫類は高頻度の共生がみられた。そのかわり多数の真珠が入っているミドリイガイが発見でき、共著論文とした (Kubota et.al., 2006)。

2004年12月25日には、ブラパ大学から南へ乗用車で1時間ほどのところにある一大リゾート地パタヤへ行った。海岸では多くの外国人がバカンスを楽しんでいた。数km沖合に浮かぶ小さな無人島へモーターボートで行って、スキンドайビングでの調査を半日した。

クシクラゲ類の2種に遭遇できたが、1種はカブトクラゲで、日本をはじめ、世界に広く分布する種だ。もう1種は赤い玉状の斑点を10個ほど袖状突起に縦列させていた。分類形質を詳しく調べなければ分からないが、おそらく日本以外では初記録となるアカホシカブトクラゲと思われる。

ブラパ大学との共同研究

ブラパ大学は広々とした敷地で整備された構内は居心地がよい。宿所も14階の最上で眺めもよく、波静かなシャム湾が毎日眺められた。熱帯系の植物や鳥・爬虫類などとともに深く印象に残った。講演も頼まれ、ベニクラゲを **Die-Hard Medusa** と紹介して不老不死の生活史に驚いて頂けた。

大学と道路を一つ隔てたところに、毎晩たくさんの屋台が真夜中まで立ち並ぶ。そこでの食事は、激辛かと思えばかなり甘い味つけもあった。ヌードルが様々でシーフードがふんだんに食べられる。エビ類の養殖も盛んなので、たっぷりエビが入っているのだ。麺類だけでなく、焼き飯にもたっぷりだった。また、生まれて初めて、虫の油いためも食べたが、結構、香ばしく美味しかった。

市場には数々の魚介類が見られたが、日本では天然記念物になっているカブトガニ類が多数水揚げされていた。カブトガニ3種のうち2種の生殖巣が食べられるとのことだが、料理法が難しく、あたることも多いため味見はしなかった。12月は乾期なので、日によっては肌寒い朝もあり、心配していたカが少なく、過ごしやすかった。

ホスト研究者たちと、カラオケやタイ式マッサージなどでリラック스와親睦もはかれていい思い出となった。ここでもカラオケチャンピオンがまかり通った。温かく親切な人柄であるタイ国研究者にすっかりお世話になった。ほとんどこれまで研究例のないヒドロ虫類なので、今後、生活史解明を含んだ地道な基礎研究を主軸とした系統分類学が育ってくればとの願いをこめて、今後もより一層共同研究を発展させていく予定である。

帰国寸前だったが、マグニチュード9の巨大地震による津波で、タイ南西部のプーケットをはじめインド洋の沿岸一帯に甚大な被害が出たとのニュースが流れた。幸運にも今回の研究はマレー半島にはばまれたシャム湾の北東部だったので、津波が回り込んでこなかった。だが、旅行前は知人のいるプーケットに出かけることも考えていたので、恐怖で身を震わした。もしかすると自分自身が漂着物になっていたかもしれないのだ。12カ国で犠牲者が出ており、2005年1月中旬になって、死者は16万人を超え、常夏の青い空と海が嘘のようである。東南海・南海大地震による津波被害が懸念されている紀伊半島沿岸では、警戒を緩めてはいけないと改めて思った出来事だった。(つづく)

5. 事務局便り：

●この「うみひろも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。配信が迷惑と思われる方は事務局までご連絡ください。

- 企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。
- このメールマガジンは、毎月1日と16日の2回発行の予定ですが、都合によって遅延や中止もあります。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせください。また、パソコンを使えない環境の方には印刷体でもお届けします。その場合は、郵送料をご負担していただくことがあります。
- このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。海の生き物や守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひろも」のバックナンバーは、ホームページからダウンロードできます。
- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごいっしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。
- 本会への寄付をお寄せください。寄付も会費も同じ銀行口座「ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会」へお送りください。なお、送金される場合は、送金の内容について事務局にお知らせ下さい。

6. 編集後記

とうとう怖れていたことが起こってしまった。電力会社の宣伝を聞いていていつも「いつかきっと」と思っていたことだったが、ついに起こってしまった。スリーマイル島原発やチェルノブイリ原発の教訓があっても、「あれは日本とは違う」「日本の原発は絶対安全」と取り合わなかった電力会社や御用学者の責任がこれから問われなければならない。まともを考えれば原発が安全とはとても思えないのだが。これから海に大量の放射性物質が流出していく。それはすでに始まっている。海の生き物たちと同様に、私たち日本に住む人間の苦悩と苦労が始まる。地震と津波で命を落とされた方たちには、こころから哀悼の意を表したい。そして、これから原発震災のために命を落とすことになる（私を含む）多くの方々のためにも。合掌。(宏)

海の生き物を守るためになにかしたい！というあなたに！

会員募集中です！

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 円/年、団体 20,000 円/年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行うことができ、そのための助成金申請をすることができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して広く通知されます。入会希望の方は、事務局

hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp (向井) まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。



メールマガジン『うみひろも』第76号

2011年4月1日発行

発行&編集人「海の生き物を守る会」

代表 向井 宏

〒606-8244 京都市左京区北白川東平井町 23-1

グリーンヒル北白川 23

TEL&FAX:075-703-7205; 090-8563-1501 メールアドレス : hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp

ホームページ URL : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

銀行口座 : ゆうちょ銀行 口座番号 : 10610-6673021 海の生き物を守る会